

2016 年 4 月 27 日

関 係 各 位

三重大学教養教育機構長  
井 口 靖  
「公印省略」

教員の公募について（依頼）

このたび、三重大学教養教育機構では、下記のとおり専任教員（年俸制）を公募しますので、関係者等にご周知いただきますようお願い申し上げます。

- 職 名： 准教授または講師
- 雇用期間： 2016 年 10 月 1 日 ～ 2021 年 9 月 30 日（5 年）  
（状況により再任する場合があります。ただし、本学規定により教員の定年は 65 歳となっています。）
- 人 員： 1 名
- 担当分野： 教養教育 教養基盤科目「アクティブ・ラーニング領域」（下記参照）及び教養統合科目（下記参照）の社会学またはその関連分野
- 給 与： 国立大学法人三重大学年俸制適用職員給与規程による年俸制とします。年俸額は、経験等を勘案して決定します。
- 応募資格： (1)大学院修士課程（博士課程の前期課程を含む。）修了者、または学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与された、これに相当する学位を含む。）を有する者で、採用予定日において 2 年以上の教育または研究歴を有する者、またはこれと同等以上と認められる者。ただし、研究歴には大学院（博士課程の後期課程）の在学期間を含めることができる。  
(2) アクティブ・ラーニングに関する実績（担当授業における取り組みも含む。）がある者  
(3)教養基盤科目「アクティブ・ラーニング領域」の授業である「スタートアップセミナー」、「教養ワークショップ」を担当でき、カリキュラム開発・運営にも積極的に関わることができる者  
(4)教養統合科目において、社会学またはその関連分野の科目を担当できる者
- 応募書類： (1)履歴書 1 通（任意様式）  
(2)教育・研究業績一覧 1 通（任意様式。査読付き論文は明示すること。）  
(3)教育・研究業績 5 点以内  
(4)シラバス（所定様式：教養統合科目のみ）  
(5)アクティブ・ラーニングに関する実践経験（担当授業における取り組みも含む。）と教養教育におけるアクティブ・ラーニングに関して自らの考えを述べたもの（A4 1 枚程度）  
(6)書評（これまで読んだ論説文（新書程度）から 1 冊；A4 1 枚程度）  
※書評の執筆を取り入れたアクティブ・ラーニング領域科目「教養ワークショップ」については、以下の URL を参照してください。  
<http://www.ars.mie-u.ac.jp/subject/workshop/>
- 応募締切： 2016 年 6 月 15 日（水）17 時必着
- 着任時期： 2016 年 10 月 1 日
- 選考方法： 書類選考および面接・模擬授業（書類選考合格者のみ、面接・模擬授業の日時・場所などを通知）
- 書類提出先： 封筒に「教養教育機構専任教員応募書類在中」と朱書きの上、下記宛てに書留郵便で送付してください。

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学教養教育機構長 井口 靖

問合せ先： 三重大学学務部教養教育機構チーム総務担当：野呂，酒井

電話：059-231-9820・9827 E メール：kyoyosomu@ab.mie-u.ac.jp

そ の 他： (1) 提出書類は原則として返却しません。博士論文等返却が必要なものはその旨お伝えください。

(2) 勤務時間等は本学規定によります。

(3) 提出書類は選考以外の目的には使用せず，返却しない書類は選考後適正に廃棄します。

### 【三重大学の教養教育について】

三重大学では 2015 年度から新しい教養教育が始まりました。全学の学生が履修する共通カリキュラムは次の 2 つの理念に基づきます。

#### 「自律的・能動的学修力の育成」

単に知識だけを持っていても常に変動する社会に対応することはできません。自律的・能動的に学習習慣を身につけ、それを基盤に主体的に問題を発見し解を見いだしていく力が必要です。これにより不測の事態にも対応できる社会人の養成を目指します。

#### 「グローバル化に対応できる人材の育成」

国際社会で活躍できる人材，グローバルな視点で地域を活性化できる人材の養成を目指します。ただし，真にグローバルな人材とは，外国語ができるだけでなく，世界的視野で物事を考えるとともに，多様な個別文化も尊重し，理解できる眼を持つ人材です。それによって自らの社会や文化も相対化することができ，地域に根ざすグローバルな人材となりえるからです。

カリキュラムは教養基盤科目と教養統合科目から構成されますが，「スタートアップセミナー」と「教養ワークショップ」は教養基盤科目のアクティブ・ラーニングに位置付けられ，自律的・能動的学修力の育成をめざす全学必修の授業です。「スタートアップセミナー」では，グループごとに課題を見つけ，それについて調査・議論し，その成果を発表します。「教養ワークショップ」では，学生が自分で書籍を読んで書評を書き，お互いに批評し合う授業を行います。これらは，教養教育機構の専任教員，特任教員が担当しますが，これらの運営や FD 研修等に積極的な役割を果たすことが求められます。

教養統合科目は，地域理解・日本理解，国際理解・現代社会理解，現代科学理解の 3 領域に分かれています。社会学およびその関連分野の科目は，地域理解・日本理解領域、国際理解・現代社会理解領域で開講されます。

#### ・ 地域理解・日本理解

地域に根ざし国際社会で活躍できる人材の育成という大学の目標の実現のため，地域を理解し，それを地域において活用することを目指す科目，それに基づき，バランスのとれた国際人となるよう日本を理解する科目を履修します。これらを国際理解，異文化理解のための科目と併せて履修することにより，自らの文化，視点を相対化することが可能となります。

#### ・ 国際理解・現代社会理解

今後の複雑な国際社会に対応できる人材を育成するため，英語力増強，異文化理解に加えて，東西の歴史や思想，政治・経済・社会のしくみ，現代の国際情勢などを学ぶ科目を国際理解・現代社会理解として履修します。

- ・現代科学理解

国際的に活躍するため、あるいは、国際社会を理解するために必要な情報科学，環境とエネルギー，生命科学などさまざまな科学的問題の基本的知識とそれらについて合理的・科学的に考える力を育成します。

三重大大学の新しい教養教育の理念等について詳しくは次をご参照ください。

<http://www.ars.mie-u.ac.jp/>